

## 【塩害対策として③】 加速期後期の重篤な変状に対する事後保全

- ・鉄筋腐食進行によって広範囲にコンクリートの浮き、剝離が発生している
    - ⇒ 浮き、剝離、鉄筋露出範囲には必然的に部分断面修復を行う  
その範囲にある鉄筋には亜硝酸リチウムを直接塗布できるため、  
鉄筋腐食の進行は抑制される
  - ・問題は、断面修復部以外の範囲をどうするか？
    - ⇒ 同じ腐食環境であれば、将来的には鉄筋腐食が進行することは明らか
- ↓
- ・断面修復部にも、それ以外にも亜硝酸リチウムを供給して、構造物全体の鉄筋腐食進行を根本的に抑制する
    - ⇒ 浮き、剝離箇所 : 『リハビリり断面修復工法』  
それ以外の全体 : 『リハビリりカプセル工法』

### 【施工例】

H26年

鳥取県東部総合事務所  
「新橋」

